

9月の果実の見通し

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
りんご類		6,738	やや上回る	5,815	250	102	260	1,058	15.7	青森、長野中心の入荷。開花が大幅に早かったことと、8月の猛暑で果肉先行が懸念された。出始めのころは着色不良で伸び悩んだものの、高冷地では気温も下がり着色も進んできた。若干小玉傾向であるが、食味は優れており、荷動きは活発。
日本なし類		11,279	やや下回る	11,071	252	110	272	39	0.3	茨城、千葉、栃木産中心の入荷となる。(豊水)9月に入り秋果実が本格化する中で8月の高値の反動で動きが鈍くなる可能性がある。ただ、各品種早まっていること、食味が向上していることから、価格が前年を下回ることはないと思われる。残暑が中旬まで続くとも価格はしっかりし、逆に秋が早まると価格が下がると予想される。総入荷量は前年をやや下回る見込み。
かき類		2,668	前年並み	1,804	333	102	378	1	0.0	和歌山、奈良、福岡産中心の入荷。8月からの気温高で着色不良も懸念されており、出始めの数量は少ないかもしれないが、前年同様に作柄は良いので、月末に一気に増える見込み。
ぶどう類		4,924	やや下回る	4,354	735	106	703	477	9.7	山梨、長野中心の入荷。もっとも品種の出そろそろ時期を迎える。夏場の高温による着色不良等で入荷量が伸び悩んだのに加え、ナシやモモなどの夏果実が前進したこともあって、8月中下旬にかけてぶどうの引き合いが強い状況となっている。9月上旬には入荷量が回復する見込みであり、売り場も拡大し取引が活発になる模様。